



心臓弁膜症に対する 経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)を開始

経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)とは？

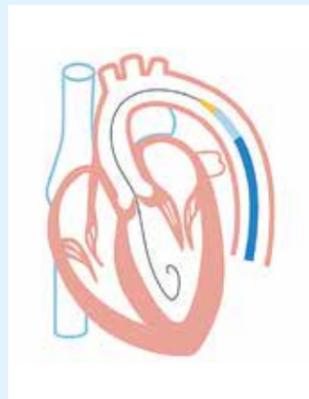


2023年10月、当院ハイブリッド手術室での手術の様子

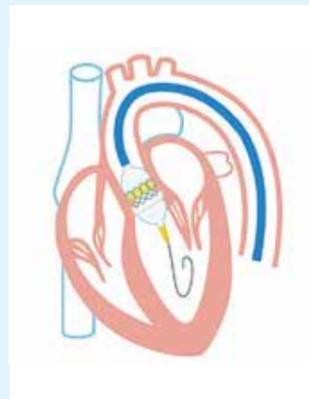
心臓弁膜症のひとつである大動脈弁狭窄症は、心臓にある4つの逆流防止弁のうち、心臓の出口にある大動脈弁が動脈硬化で開かなくなってしまう、十分な量の血液を送り出せなくなる病気。初期は無症状であることが多く、突然の意識消失や胸痛、呼吸苦などが出現したことにより発見されることが多いです。

これまでの治療は開胸による外科的大動脈弁置換術が主でしたが、体への負担が大きいため、高齢などのリスクを抱えた患者さんには適応が難しくなっていました。経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)は、血管を通路に見立て、人工弁を搭載したカテーテルを心臓まで運び、大動脈弁の交換を行う手術です。これまで治療を諦めていた患者さんへの新たな選択肢として期待されています。

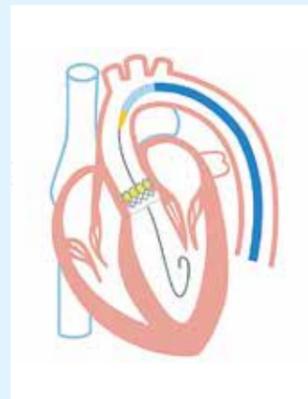
01 カテーテルの挿入



02 人工弁を展開



03 カテーテルの抜去



画像提供:エドワーズライフサイエンス株式会社

PARK HOSPITAL®

安心と
つながりの拠点

YOKOHAMA MUNICIPAL
CITIZEN'S HOSPITAL

横浜市立市民病院 広報誌 [パークホスピタル]

2023

December

TAKE FREE

Vol. 39



特集

ストロークブレインセンター 「脳卒中・頭部外傷の治療」

横浜市立市民病院

診療
受付

月曜日から金曜日
(土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休診)

- 初診の方 午前8:00~11:00 (診療開始8:45)
- 再診の方 午前7:30~11:00 (診療開始8:45)



救命救急センターへの受入れについて

- 平日日中 原則、救急車で搬送された患者さんのみ受入れを行っています。
- 夜間・休日 必ずお電話にて連絡の上ご来院ください。



特集 ストロークブレインセンター

突然起こる脳疾患、 ためらわず医療につながって



脳の病気に「何となく怖い」というイメージを持つ方は多いものの、自分事として考えられていますか？この機会に、正しい基礎知識や日常生活での注意点を覚えておきましょう。2023年10月に開設された「ストロークブレインセンター」の紹介を含め、当センターの山口医師、松澤医師、増尾医師に教えてもらいました。



左から松澤医師・山口医師・増尾医師

ストローク
ブレインセンター長
脳神経内科長
山口 滋紀
SHIGEKI YAMAGUCHI

脳神経外科長
松澤 源志
MOTOSHI MATSUZAWA

脳血管内治療科長
増尾 修
OSAMU MASUO

01 脳の病気というと、まず脳卒中が思い浮かびます。 どんな種類や注意点があるのでしょうか。

山口：「卒中」という言葉は、「突然起こる」という意味です。脳卒中は、脳の血管に関連して突然起こる病気だといえます。イメージすると分かりやすいでしょう。具体的には、脳の血管が詰まる「脳梗塞」、脳の血管が破れて脳組織内に血腫ができる「脳出血」、脳動脈の瘤などが破れて脳を包む薄い膜の隙間で出血が生じる「くも膜下出血」に分けられます。この中で最も多いのが脳梗塞で、当院のデータでは脳卒中のうち約6割が該当します。血管が詰まったり破れたりする部位により症状はさまざまですが、いずれも急を要する病気であることは間違いありません。脳卒中の初期症状を確認するには、「FAST」という方法があります。顔の麻痺（Face）、腕の麻痺（Arm）、言語障害（Speech）の症状が一つでもあったら、発症時刻（Time）を確認してすぐに119番するというもの。これ

を目安にさせていただくと思います。

増尾：病状によっては1分1秒を争うことにもなり得ます。例えば、脳梗塞の一種である心原性脳塞栓症は、心臓で作られた血の塊が流れてきて脳の血管に詰まってしまう病気。この血栓を溶かすための薬剤を注入する血栓溶解療法は、治療開始のリミットが発症後4.5時間以内とされています。時間的な猶予が限られるため、当院では職種の垣根を越えたスムーズな連携で、患者さんが病院に到着してから治療が終わるまでの時間を短縮化しています。

松澤：いわゆる頭部外傷も、緊急性が高いケースがしばしばあります。近年増加しているのが、転倒・転落などによる高齢者の頭部外傷です。特に血液をサラサラにする効果がある抗血栓薬を内服している方では、軽微な頭部外傷でも頭蓋内出血が起こりやすくとされています。また、当初は異常がなかったにもかかわらず、後から頭蓋内出

血が現れるケースもあります。高齢者や抗血栓薬を使っている方は、ちょっとしたけがに思えても早めに受診することをお勧めします。

02 2023年10月に開設した「ストロークブレインセンター」の機能について教えてください。

山口：「ストローク」は脳卒中、「ブレイン」は脳を英語で表現したものです。脳の病気を扱う診療科として、当院には脳神経内科、脳神経外科、脳血管内治療科の3つがあり、これまでも連携しながら診療に当たってきました。今回、「ストロークブレインセンター」を立ち上げたのは、各部門との連携を一層強化するため。看護部、リハビリテーション部、栄養部、薬剤部などを含めて強固な協働体制を築き、急性期の脳疾患や頭部外傷に対するより良い医療を実現したいと考えています。

増尾：脳の病気やけがはいつ起こるか分からず、たとえ夜中でも早期治療につなげなければなりません。当院では24時間365日救急対応を行っており、上記3科のうちどこが窓口になった場合でも、すぐに連絡を取り合って適切な診療体制を整えることが可能です。たとえ深夜2時に脳梗塞の患者さんが搬送されてきたとしても、治療を朝までお待たせするようなことはありません。30分～1時間程度で必要なメンバーをそろえ、適切な治療を開始することができます。

松澤：治療後に地域へ戻ることをサポートしているという点でも、安心感が大きいと思います。当院では術後早期からリハビリテーションを開始し、復帰まで時間が

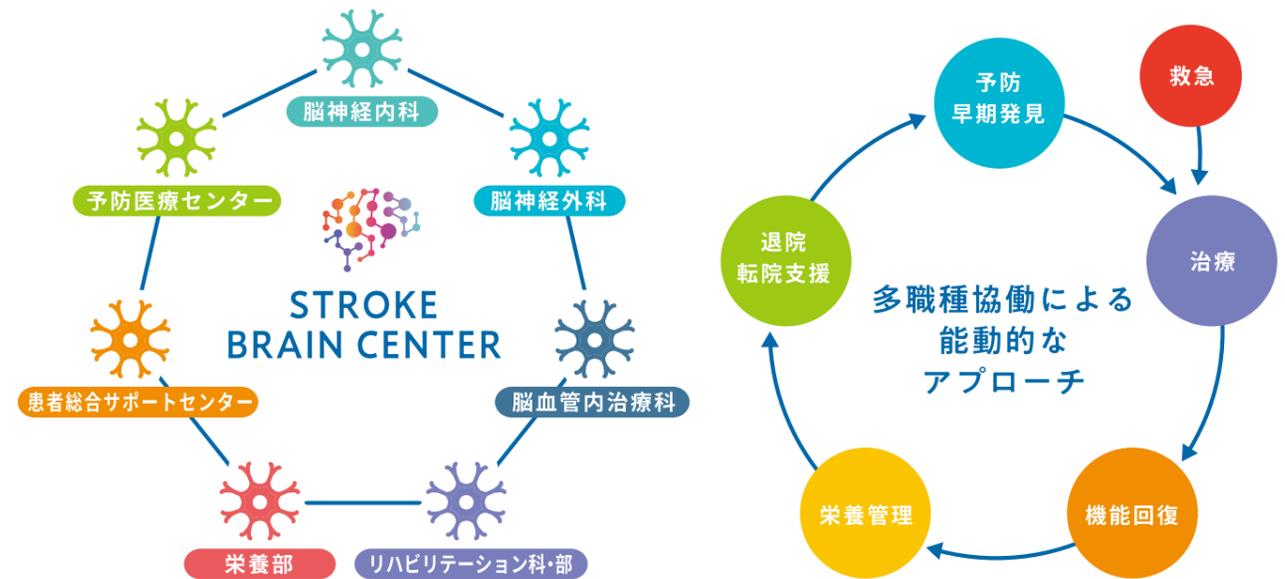
かる場合は回復期の病院につなげていきます。また、看護師や医療ソーシャルワーカーが中心となって地域連携を実現し、退院後の生活までしっかりとフォローしていきます。要介護で一人暮らしの方などは、軽度でも後遺症が残ると、元の生活への復帰が難しくなることも少なくありません。ただ退院すればよいというのではなく、生活療養の場を確保することを重視しています。

03 最後に、市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

松澤：脳卒中の予防という観点からも、高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病について日頃からケアを怠らないでください。また、自覚症状を伴わない脳の病気もあるため、頭部MRIを中心とした検査を定期的に受けることも有効な手段の一つ。当院でも脳ドックを実施しているので、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。

増尾：健康な方ほど、脳卒中のリスクに対して、どこか他人に感じやすいもの。しかし、実際には誰に起こってもおかしくない病気です。何か異変を感じたとき、「まさか自分が」と目を背けるのではなく、「まず病院へ行こう」と考えてみてください。当院は総合病院であり、脳以外の持病を併せ持った方でも幅広く対応可能です。

山口：脳卒中は、来院のタイミングが早ければ早いほど、治療の選択肢が広がります。「いつもと違う」と感じたら、ためらわず医療につながってください。当院のスタッフが全力で対応いたします。





ストロークブレインセンター

脳疾患の緊急治療

当センターが行っている治療には、どのようなものがあるのでしょうか？代表的な治療をご紹介します。

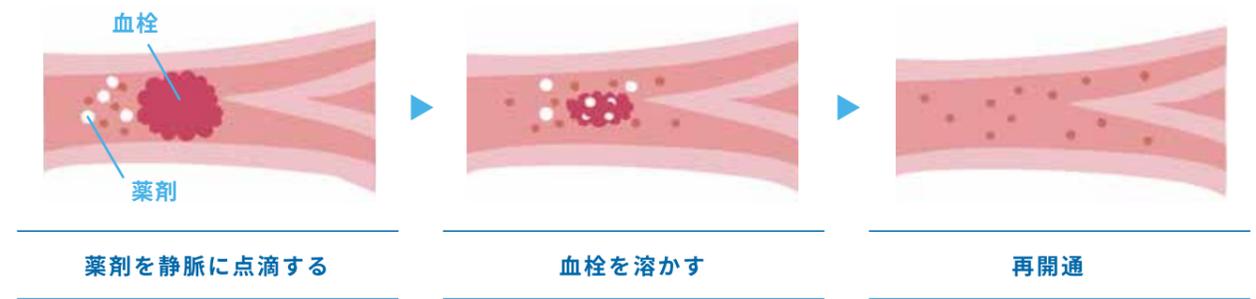
脳梗塞

脳梗塞には、大きく分けて、心房細動など心臓の病気が原因で血栓を生じる「心原性脳塞栓症」、動脈硬化を背景として主に主幹動脈に狭窄を生じる「アテローム血栓性脳梗塞」、主幹動脈から分岐する細い血管が詰まる「ラクナ梗塞」の3種類があります。

このうち、心原性脳塞栓症は、何の前触れもなく突然生活を奪ってしまう恐ろしい病気です。脳梗塞の治療は緊急を要するものが多いですが、とりわけこの病気の治療は1分1秒を争います。治療には、静脈から血栓を溶かす薬剤を注入する方法(アルテプラゼ静注療法)

と、カテーテル治療で血栓を直接取り除く方法(経皮的脳血栓回収術)があり、病気が起こってからできる限り早くこれらの治療を開始し、詰まった血管を再開通させなければいけません。これらの治療をできるだけ早く行うことにより、元通りの生活に戻ることも可能となります。当院では、24時間365日いつでも、受け入れ体制が整っており、最新の画像診断から治療まで、迅速に対応しています。またこの病気は再発することが比較的多いため、治療後も総合病院の強みを生かし全身管理を含めたトータルケアを行っています。

血栓溶解療法（アルテプラゼ静注療法）



血栓回収術（ステントリトリーバーを用いた経皮的脳血栓回収術）



※ステント: 金属でできた網目の筒状のもの

画像提供: 日本メドトロニック株式会社

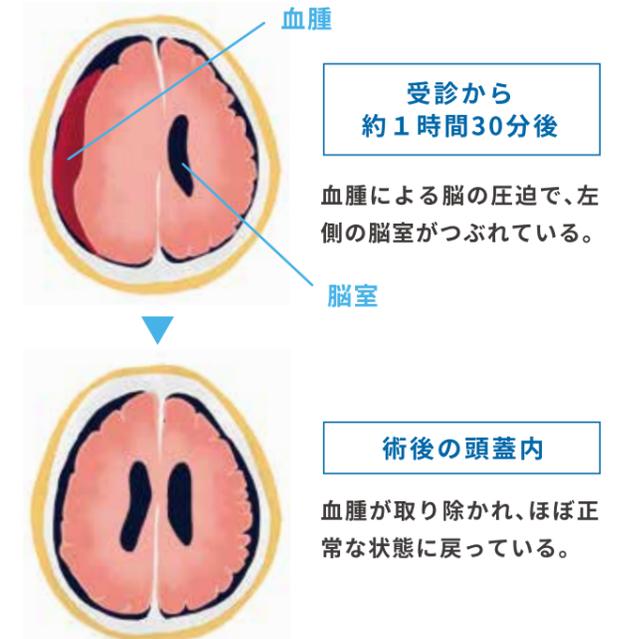
頭部外傷

転倒、転落などで頭をぶつけたことによる頭部外傷は、受傷直後や受診時には軽症であっても、その後、頭蓋内出血が増量し急変することがあります。当初は、会話をすることができていても、その後、意識が低下する「talk and deteriorate(トーク アンド デテリオレイト)」という怖い病態です。

一例をお示しすると、90代男性が、屋外で転倒したところを歩行人に発見され救急搬送されました。搬送された時は会話ができていたのですが、約1時間30分後に意識不明に陥りました。頭部CTでは、急性硬膜下血腫の増量が認められ、緊急開頭手術を行い、幸い一命をとりとめました。

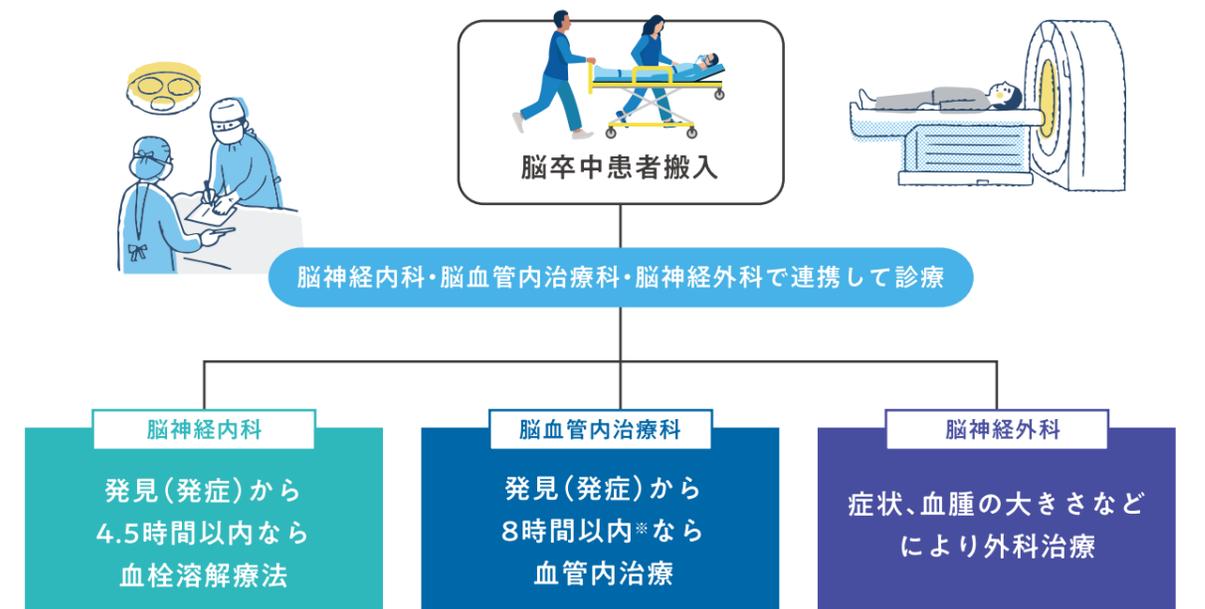
頭部外傷においては、このような急変が起こり得ます。頭部外傷の急性期の治療として、重症の場合は、手術治療、脳圧センサー挿入※及び体温管理等の高度急性期治療を積極的に行い、軽症の場合は、病状悪化時に備え厳重な監視をいたします。

※脳圧センサー挿入: 脳の病変などにより脳圧が上昇し、頭痛や吐き気、意識障害などの症状が見られることがあるため、頭蓋内に脳圧センサーを設置します。



当院の脳卒中急性期診療の流れ

ストロークブレインセンターでは、脳神経内科・脳血管内治療科・脳神経外科と連携し、血栓溶解療法、血管内治療、外科治療などの治療選択肢を検討します。



※灌流CT(造影剤を使用した血流評価)の結果や症状により8時間以降でも治療適応となる場合があります。



脳卒中の患者さんを 私たちがサポートします

当院では、脳卒中の患者さんが早期に回復して日常生活に戻れるよう、入院中から退院後まで継続的な支援を行っています。

■ 早期からのリハビリテーション

リハビリテーションは、脳卒中を発症してから、早い時期から始めた方が良いといわれています。早期に開始することにより、身体の麻痺はより改善され、頭の働きも以前に近い状態を取り戻しやすいことが報告されています。このため、集中治療室、一般病棟にかかわらず、脳卒中の患者さんには早期より対応しています。リハビリのスタッフには、歩く動作などの練習をする理学療法士、生活動作を練習する作業療法士、飲み込みや言葉の練習をする言語聴覚士がおり、医師・看護師と連携して



リハビリテーション
科長
野々垣 学
MANABU NONOGAKI

リハビリを進めています。長期のリハビリが必要な患者さんに関しては、専門病院への転院も進めていきます。

■ 栄養面からサポート

病気から回復するためには十分な栄養が欠かせません。脳卒中で入院される方の中には問題なく食べられる方ばかりでなく、嚥下食という飲み込みやすい食事が必要な方、口から食べることが難しいために鼻から管をいれて栄養剤を摂取する方もいらっしゃいます。私たち管理栄養士は入院患者さん一人一人が必要な栄養を摂取できているか、十分食べられていない場合は患者さんのお話を聞いて食べられるように食事を考え、医師、看護師など他職種と情報交換をして最適な栄養摂取ができるように働きかけます。また、退院



栄養部
管理栄養士
森下 朋子
TOMOKO MORISHITA

後の食事についての困りごとがあれば、ご相談いただいています。患者さんが一日も早く回復されるよう日々関わっていますので、入院中に何かありましたら遠慮なくご相談ください。

■ 患者さんやご家族を支援・サポート

患者総合サポートセンターの医療ソーシャルワーカーや看護師は、病気やけがによって生じた生活上の課題の解決に向けて、医師や病棟看護師、リハビリテーションのスタッフなどの専門職と協力しながら患者さんやご家族を支援しています。脳卒中は突然発症し、リハビリが必要となったり後遺症が残る場合もあり、これまでの生活が一変してしまうことがあります。急な病気によって起こる心配事、例えば自宅での生活、就労の継続、リハビリ、経済状況、介護などに関するご相談をお受けし、心理面のサポートも行ってい



医療ソーシャル
ワーカー
加藤 紀美
KOTOMI KATO

ます。同じ病気であっても患者さんやご家族の立場や環境はそれぞれ異なるので、その方にとって何が望ましいかを一緒に考えて、少しでも目標に近づけるようにサポートしていきます。



患者総合サポートセンター 登録医療機関をご紹介します

小川内科クリニック（保土ヶ谷区）

【診療科目】内科・胃腸内科・内視鏡内科

当クリニックは、祖父小川三郎が西谷に開院して以来約70年間、何でも相談できる「かかりつけ医」として地域医療を支えています。風邪などの一般内科疾患、生活習慣病に加え、胃がん・大腸がんの早期発見に重要な胃・大腸内視鏡検査を内視鏡専門医・指導医である院長が行っております。軽い麻酔で苦痛の少ない内視鏡検査が可能です。専門的な治療が必要な場合は、市民病院の各科と密接に連携しておりますので、何か気になることがございましたら、お気軽に当クリニックへご相談ください。



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	-	○	○
15:30~18:00	○	○	○	-	○	-

【休診日】木曜日、土曜日午後、日曜日、祝日 ※胃カメラ：8:30~9:00 大腸カメラ：14:00~15:30
〒240-0054 横浜市保土ヶ谷区西谷3-12-26 TEL:045-371-3014 URL:https://www.ogawa-medical.jp/

横浜かんだいじファミリークリニック（神奈川区）

【診療科目】内科全般・感染症内科・呼吸器科・循環器科・消化器科・小児科・アレルギー科

当院は、横浜市民病院からほど近い神奈川区神大寺にあるクリニックです。地域のかかりつけ医として、地域に貢献できるクリニックを目指し2020年に開院しました。生活習慣病や発熱性疾患など幅広く対応し、総合診療的な対応をしていますが、専門的な診断が必要な場合には、適切なタイミングで市民病院をはじめとした医療機関へ相談いたします。当クリニックは、「この症状は、何科に行けばいいのだろう？」を解決するための入り口として、患者さんの訴えを広く受け入れ、問題点を抽出し、適切な診断・治療を行うことを目指しています。お気軽にご相談ください。



診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	-	○	○	-

【休診日】水曜日・土曜日午後、日曜日、祝日
〒221-0801 横浜市神奈川区神大寺1-13-46神大寺メディカルスクエア TEL:045-491-2020
URL:https://yokohama-kandaiji-family-clinic.jp/